



**“The only thing we know about the future is that is going to be different.”**  
将来について分かっていることは、今とは違うということだ。

**“The most important thing in communication is to hear what isn't being said.”**  
コミュニケーションでもっと大切なことは、  
相手の言わない本音の部分聞きことだ。

**ピーター・ドラッカー**

IHI Europe Ltd. 社長  
藤原 雄介

## IEL の機能と役割

IHI は 1972 年、欧州初の調達・財務拠点として Ishikawajima Europe B.V. (IE, 登記地オランダ) をロンドンに設けました。そして、1992 年には営業拠点として IHI Europe Ltd. (IEL) を設立。その後、2007 年に IE と旧 IEL を機能統合し、現在の IEL を発足させました。IEL は IHI グループの機能分担会社として、陸上機械営業、航空エンジン事業支援、調達、新

事業開発・新技術発掘の 4 つの機能を担っています。

陸上機械営業では、アメリカ、シンガポールと並ぶ Oil & Gas ビジネスの 3 大情報拠点の一つとしてボーダレスな活動を行っています。また、IHI グループ会社の欧州展開支援にも注力しています。航空エンジン事業では、Rolls-Royce 社とのコーディネーションと整備営業を担当しています。調達部門は、特色ある欧州製品の発掘・発注を行っています。そして、IHI の未来を託す活動として、新事業創出・新技術発掘に取

組んでいます。

IEL は、欧州情報センターとして、日本からの派遣者 7 名、現地職員 5 名の総勢 12 名で、パートナー企業・EPCC・エンジニアリング会社・大学や各種研究機関・コンサルタント・銀行・商社などと幅広い関係を築き情報発信に努めています。

## 新事業開発・新技術発掘

新事業開発では、今後のエネルギー政策の鍵<sup>かぎ</sup>を握る再生可能エネルギーに注目し、まだ萌芽期と言える海洋エネルギー（潮力・波力）やバイオマス発電に取り組んでいます。

新技術発掘では、石炭火力における CCS・水銀除去、原子力燃料のガラス固化、順浸透膜による海水淡水化、Stem cell 培養システムなどにつき社内各部門と検討を進めています。

イギリスの大学の水準は全体に高く、世界大学ランキングで 3 校がトップテン入りしています。個を尊重し異端を排除しない伝統的なエリート教育の場に、大勢の留学生、外国人研究者・教授が参加して、多彩な考え方が火花を散らす、知的刺激に満ちた世界を織り成しています。

技術の発掘は同時に「人」の発掘でもあり、イギリスという恵まれた土壌で、最先端技術の第一人者やユニークな発想を持つ研究者と IHI が共同研究を行いながら技術を育て、新たな事業を生み出すことを狙っています。

## 欧州における IHI の軌跡と未来

陸上機械の主な実績は、70 年代のポーランド・ハンガリー・ギリシャ向けコールドミル、トルコゴールデンホーン橋、80 年代のハンガリー向け流動床ボイラ、オランダ向け部品用自動倉庫、トルコ第二ボスボラス橋、90 年代のベルギー向け部品用自動倉庫、イギリス・スペイン向けプレス、ドイツ向けコーター、2000 年以降は、ブルガリア FGD、現在建設中のドイ



Scroby Sands Wind Farm (Aug. 1, 2011, 17:04 UTC). In Wikipedia : The free Encyclopedia. Retrieved from [http://en.wikipedia.org/wiki/Scroby\\_Sands\\_wind\\_farm](http://en.wikipedia.org/wiki/Scroby_Sands_wind_farm)

ツ向け火力発電プラントなど多彩です。更に、過給機、建機、産業用エンジン、PVD/PACVD 装置、タンクの現地生産やディーゼルエンジン販売、修理船など幅広い事業に取り組んでいます。合弁・関係会社、駐在員事務所は 12 を数えます。

グローバルアジェンダに敏感な欧州では社会・産業構造の変化が急速に進んでおり、それに伴って IEL の活動も、環境、エネルギー、資源関連分野の比重が増えています。

欧州の強みは、CO<sub>2</sub>削減に向けた「20-20-20 戦略」のように、優れた技術開発力に加え、それを実現させる為の政策立案、規格標準化、支援制度の工夫といった構想力、そして老練な交渉力であり、学ぶべき点が多々あります。

最近、「欧米」という言葉があまり使われなくなったように感じます。これは社会の深層で異文化理解が進みつつあることの予兆ではないでしょうか。「欧」だけ取ってみても、多様な文化がせめぎ合っています。例えば、「英米」で比較すると、合理性を追求し、主張を inflate する「米」に対し、合理性を尊重しながらも常に懐疑的で、主張を抑制的に deflate する懐の深さがある「英」の違いは際立っています。異文化理解に努め、相手の本音を察する感性を大切にしながら、今とは違う未来に立ち向かっていきたいと思えます。